

2023 年度第 4 回価格審査会の開催について

2023 年度第 4 回価格審査会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

この価格審査会は、外部の有識者によって、当財団が発刊・公開する定期刊行物等の掲載価格について、その客観性、妥当性の審査を行うものです。

開催日時	2023 年 7 月 14 日(金) 10:00~12:00
場 所	6 階大会議室
委 員	田中 弘 日本工営ビジネスパートナーズ株式会社 経営管理本部 コーポレートコミュニケーション室 シニアエンジニア 鈴木 由香 株式会社日本設計 コスト設計部長 栗原 圭一 東日本建設業保証株式会社 業務部 副部長 辻 保人 一般財団法人日本建設情報総合センター システム事業部門 コリnz・テクリスセンター長 早川 和利 東日本旅客鉄道株式会社 東京建設プロジェクトマネジメントオフィス プロジェクト支援ユニット プロジェクト予算 マネージャー(総括)
当 会	共通資材調査部 部長：大澤 勝、次長：小林 法雅 建築調査部 部長：高橋 俊一、次長：島田 理久 監査審査室 室長：黒澤 昭浩 調査統括部(事務局) 部長：柴尾 治、課長：本間 哲

2023 年度第 3 回価格審査会議事録(案) 確認

2023 年度第 4 回価格審査会審議資料説明

審議資料の説明
1. 「建設物価」8月号、「Web 建設物価」8月号 ・価格が上伸した資材（工事費） 【Web 建設物価】 セメント（バラ）（宇都宮市ほか2都市）、レディーミクストコンクリート（小樽市ほか97都市）、再生砕石類（大船渡市ほか27都市）、PHCパイプ（長野市ほか3都市）、アスファルト混合物（高知市ほか3都市）、芝（大阪市ほか6都市）、燃料油（札幌市ほか62都市）、鉄スクラップ（全国）ほか ・価格が下落した資材（工事費） 【Web 建設物価】 異形棒鋼（青森市ほか38都市）、鋼板（札幌市ほか47都市）、コンクリート型枠用合板（札幌市ほか55都市）、非鉄スクラップ（札幌市ほか2都市）ほか
2. 比較資料 ・企業物価指数、モニター調査結果、業界紙との比較結果について説明

審議事項	委員の意見、質問	建設物価調査会説明・回答
質問 1	コラムのコメントに「販売店間の受注競争が激化」とあるが、昨年度あったコラムの品薄は現在解消しているのか。	昨年度、コラムが大型倉庫向け等で需給ひっ迫していた時期があったが、現在は解消しており、販売店間の受注競争が激しくなっている。
質問 2	一般建築用木材のコメントで「住宅向けを含めた全体需要が減少している」と説明があった。こうした状況の中、大幅値下がりしていた 2020 年の水準まで下がらずに今月は横ばいとなった理由は何か。	伐採・乾燥に係る製造コストや運搬コストなどが上昇する中、製販側が抵抗したため横ばいとなった状況とみられる。
質問 3	鉄スクラップのコメントに「需給ひっ迫を背景に上伸」と記載があり、「国内の発生材が少なかったため」と補足説明があった。国内の主な発生元と発生が少なかった理由は何か。	国内の主な発生元は建物の解体材である。発生が少なかった理由は、労務者不足により解体工事の進捗が遅れていることが主な要因である。
質問 4	「移動式火薬庫」の最大変動率が 154% と大きい理由は何か。	「移動式火薬庫」は特定メーカーのブランド品である。メーカーが鋼板等の値上がりを背景に大幅な価格の見直しを行ったため、変動率が大きくなっている。
質問 5	名古屋地区のレディーミクストコンクリートが今月値上がりし、さらに 10 月から値上げを予定しているとのことだが「先行き横ばい」の見通しとしている。「先行き」とはどの程度の期間を指し、見通しを「強含み」ではなく「横ばい」としている理由は何か。	「先行き」は 1～3 カ月程度先を示している。一般的に、値上げが行われる前には駆け込み需要が発生するため、本格的な値上げ交渉が開始されるまでに 1～3 カ月程度を要する。このため「先行き」の見通しを「横ばい」としている。
質問 6	同じ下落理由コメントで、溶接金網には「”需要減少による”受注競争が激化し、下落」と”需要減少による”の記載があるが、コラムには「受注競争が激化し、下落」と”需要減少による”の記載がない。”需要減少による”の記載有無には、何か違いがあるのか。	各々の値下がり要因は、コラムが「原材料である鋼板価格下落の影響」である一方、溶接金網は「”需要減少による”シェア競争の激化の影響」である。価格下落の要因の違いにより記載内容が異なっている。

質問7	南九州地区で骨材の値上がりが目立っているが、どのような背景があるのか。	骨材は、電力料金などの製造コスト値上がりを背景に全国的に値上げ交渉が行われているが、交渉の進捗度合いは地域によって異なる。九州地区は販売先となるレディーミクストコンクリートの値上げが進み全体的に交渉が進展しやすい環境にある。先月は福岡県、長崎県など主に九州北部が上申し、今月は宮崎県、鹿児島県など主に九州南部が上申しした。
質問8	土木シートのコメント欄に「原料高や輸送コストの増加に伴うメーカー値上げが浸透し上申し」とあるが、最近多い豪雨災害の影響はあるのか。	土木シートの製品需給にひっ迫は見られないため、豪雨災害の直接的な影響は今のところない。今回の値上がりは各種コストの増加が主要因である。
質問9	建設市場全体を考えると建設需要は減少している局面と判断できるのか。もしそうだとすると、需要減少下で、様々なコスト要因による影響を強く受けた資材の価格が上昇しているという見解でよいのか。	都市部における大規模な再開発プロジェクトは盛況であるが、中小規模の物件、特に地方部では民間の非住宅建築着工が減少しており、全体的な建設需要は精彩を欠いている印象である。この状況下、エネルギー、素材および輸送コストなど様々なコストが上昇しており、その影響を受けた価格上昇が多くの資材で見られている状況である。
審議結果	「建設物価」8月号、「Web 建設物価」8月号の価格動向に問題はなかった。	

以上